

<http://www.hagihara.co.jp/>

最新のトピックスをはじめ、当社に関する
さまざまな情報がご覧いただけます。



HAGIHARA
萩原工業株式会社

HAGIHARA
HAGIHARA INDUSTRIES INC.

第51期
年次報告書

平成24年11月1日～平成25年10月31日

萩原工業株式会社



株主の皆様におかれましては、平素よりご高配をいただき、厚く御礼を申し上げます。

萩原工業の新たな半世紀への船出となる平成25年10月期が終了しましたので、ここにご報告いたします。

当連結会計年度におきましては、創業から半世紀が経過し、次の半世紀のスタートにあたる第51期を「新たな創業」と位置づけました。当社が創業以来大切にしてきた企業文化や「切る」「伸ばす」「巻く」の中核技術を大切に守りながら、それらを更に磨き上げることで、フラットヤーン関連事業における確固たる地位を築くことに努め、社員一人ひとりが「新たな創業」を牽引すべく邁進してまいりました。

当社を取り巻く環境は、景気回復への明るい兆しが見える一方、為替リスクや原材料価格の変動など、依然として不透明感が残っております。このような状況だからこそ、様々な外部環境に左右されない経営体制の構築に向け、当社はこれからも進化し続けます。そして、当社の製品や技術を通じて、世のため人のために役立つ会社であり続ける所存であります。

経営方針

当社グループは、「長年培ったフラットヤーン技術を大事にしながら、常に変革し続け、世のため人のために役立つ会社であろう」を経営理念として掲げ、顧客の便益性に応え最高の品質とサービスを提供し、提案型マーケティングと圧倒的なコスト競争力を持ち、独創的な製品を開発することを基本方針といたしております。

平成26年10月期におきましては、「続、新たな創業を牽引し現状を打破するため 販売力強化へ主要戦略を結集し遂行す」をスローガンに掲げ、中期経営計画（MI53）の達成に向けて、「Marketing」・「Management」・「Innovation」においてそれぞれ具体的な施策を遂行してまいります。そして、質実ともに優良企業への成長を目指して、株主・取引先の皆様並びに従業員との共存共栄を図り社会への一層の貢献を行うことを経営方針として活動してまいります。

対処すべき課題

当社グループは、激しさを増す市場競争のなかで、中期経営計画（MI53）の実行により、フラットヤーン関連事業で確固たる地位を築くことに努めます。

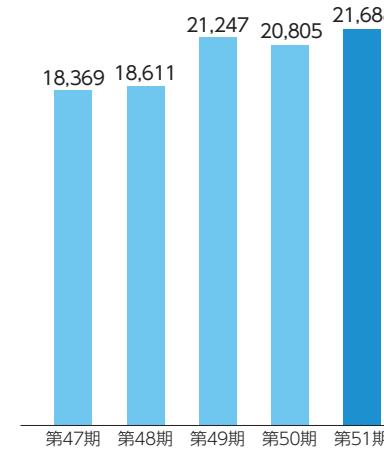
そのためには、コスト競争力、新製品・高機能化製品の開発及び海外市場開発、それぞれの強化を図るとともに、連結最適生産体制の再整備、人材育成、そして徹底した安全と品質向上を通じて、当社を取り巻く様々なリスクに対して揺るぎない経営体制の構築にグループ一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様には、引き続きご支援ご鞭撻をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

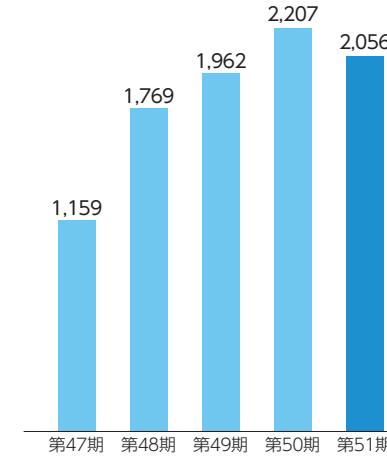


代表取締役社長 萩原 邦章

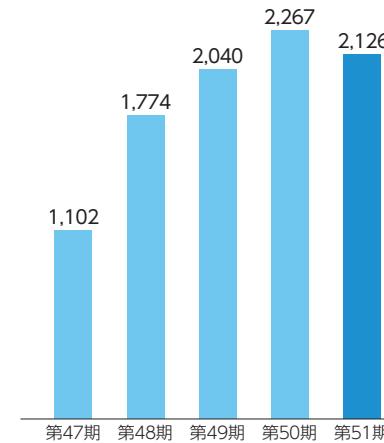
売上高(連結) (単位：百万円)



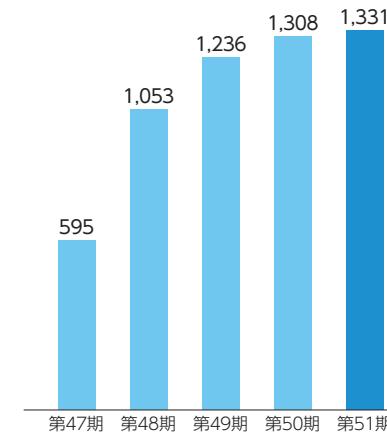
営業利益(連結) (単位：百万円)



経常利益(連結) (単位：百万円)



当期純利益(連結) (単位：百万円)



平成25年10月期
決算サマリー(連結)

■ 売上高
216億88百万円
前期比 **4.2%**増

■ 営業利益
20億56百万円
前期比 **6.8%**減

■ 経常利益
21億26百万円
前期比 **6.2%**減

■ 当期純利益
13億31百万円
前期比 **1.8%**増

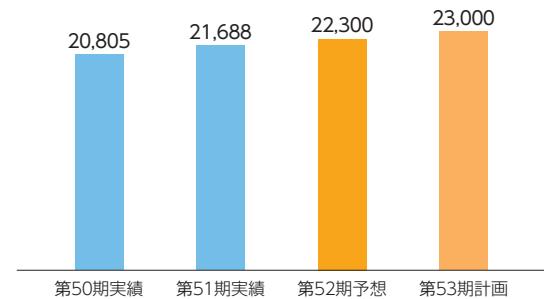
— 中期経営計画 MI53 —

スローガン

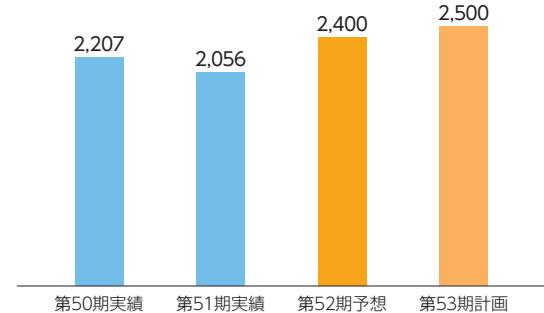
新たな創業へ
奮起せよ、パイオニア精神！

第53期 数値目標	連結売上高	230億円
	連結経常利益	25億円

売上高（連結） (単位：百万円)



営業利益（連結） (単位：百万円)



具体的施策

Marketing

- ①高機能・高収益製品開発の強化
- ②戦略製品の海外市場拡大
- ③顧客視点重視で販売力と開発思考力の強化

Management

- ①成長事業領域への選択と集中
- ②連結最適生産体制の整備と強化
- ③グローバル調達の調査と拡大

Innovation

- ①生産システム改革による非連続コストダウンの追求
- ②先端技術と素材活用で業界事業領域への進出
- ③国際化対応人材育成と効率組織力強化

— あなたの近くにきっとある 萩原工業 —

当社のフラットヤーン関連製品や関連技術は、皆様の生活の中のあらゆる場面で活躍しています。中には、「これも萩原工業の製品？」という意外なものもあります。「あなたの近くにきっとある」皆様の暮らしを支える当社の製品の一部をご紹介します。



テレビやパソコンのそば、車の中など、手軽に掃除するのに便利なハンディタイプモップ。このモップのパイル部分に当社のフラットヤーンが使用されています。特殊技術により固定電荷を帯びさせたフラットヤーンを使用することで、安定した固定電荷の力で簡単にホコリを取ることができます。吸着剤が使えず静電気を嫌う電化製品・OA機器や、水気を嫌う障子や壁紙の掃除にも大活躍しています。

球技用グラウンド等で利用されている人工芝。当社ではフラットヤーン技術を活かし人工芝の原糸を製造しております。サッカー場で利用される人工芝は、天然芝に比べて維持・管理費を抑えることができるのが魅力ですが、夏場には表面温度が70℃を超えることが欠点でした。当社では、独自のフラットヤーン技術により温度抑制機能のある人工芝原糸を開発し、従来品に比べ表面温度を約8℃下げることができました。



コンビニのレジで会計の際に受け取るレシート。このレシート、元々は大きな紙のロールですが、萩原工業の「スリッター」という機械によって、お馴染みの幅にカットされ巻き直された後、コンビニのレジにセットされます。このスリッターには、当社がフラットヤーン製造で培った「切る・巻く」技術が応用されており、レシートの他にもペットボトル飲料のラベルや光学系フィルムなど、暮らしの中の様々な場面で当社のスリッターが活用されています。

TOPICS 創立50周年記念事業

社員旅行

昨年、社員旅行を行いました。旅行を通じて社内のコミュニケーションが一層活性化され、非常に有意義な社員旅行となりました。



新テレビCM・社歌

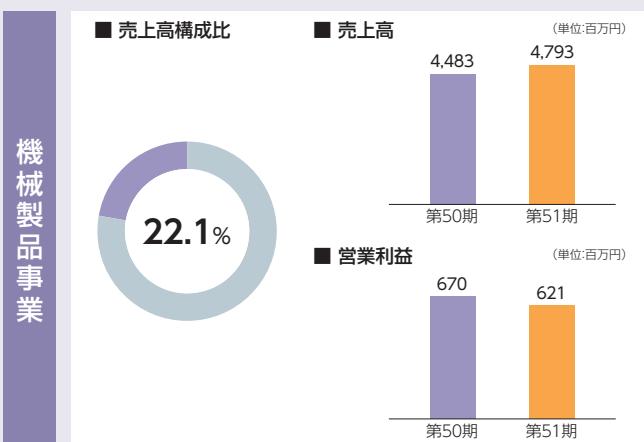
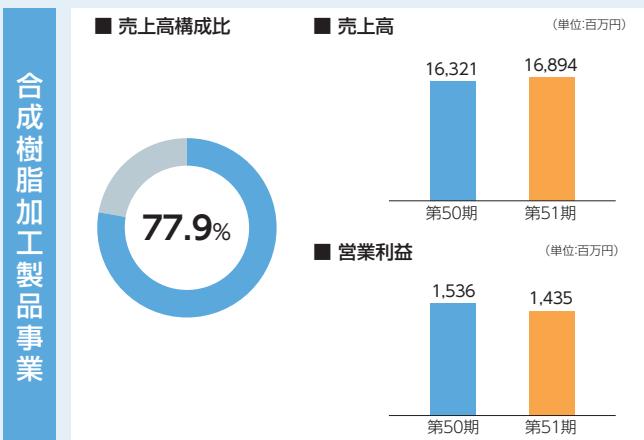
新しいテレビCMと社歌を作成しました。どちらも明るく闊達な雰囲気仕上がっております。

当社のホームページよりご視聴いただけますので、ぜひご覧ください。

(URL: <http://www.hagihara.co.jp/>)

業績全般の概況

当連結会計年度におけるわが国の経済は、デフレ脱却に向けた各種政策により景気回復への明るい兆しが見えるものの、海外景気の下振れリスクは依然として残り、為替リスクや原材料価格の変動など、予断を許さない状況が続いております。



このような状況のもと、当社グループにおきましては、「新たな創業を牽引する新製品開発を全社員参加で遂行す」をスローガンに掲げ、中期経営計画（MI53）に基づき各種施策に取り組んでまいりました。

概況

合成樹脂加工製品事業におきましては、原油・ナフサの海外市況の高止まりにより原料価格が上昇し円安の進行により輸入商品価格が上昇する厳しい経営環境のもと、海外向けラミクロスシートやコンクリート補強繊維の拡販及び補強基材であるメルタッククロス包装資材用途への新展開を推進するとともに、国内向けでは人工芝関連の新製品開発に注力する一方でコスト低減策にも取り組んでまいりました。

インドネシアの子会社「ハギハラ・ウエストジャワ・インダストリーズ社」におきましては、増収となるものの急激な労務費の上昇、ルピア通貨安の影響により前期に比べ減益となりました。中国の子会社「青島萩原工業有限公司」におきましては、業績は概ね順調に推移しました。

概況

機械製品事業におきましては、主力製品であるスリッター関連機器は低価格化と短納期対応など厳しい事業環境が続きましたが、スマートフォンやタブレット端末などに関連した機能性フィルム加工用スリッター機は順調に推移しました。押出関連機器は、合理化ニーズが強く、スクリーンチェンジャーは好調に推移いたしました。また、開発にも注力し、新規分野開拓や成長領域へ積極的に事業拡大を図ってまいりました。

その結果、当連結会計年度の業績は、売上高216億88百万円（前期比4.2%増）、営業利益20億56百万円（同6.8%減）、経常利益21億26百万円（同6.2%減）となりましたが、当期純利益は13億31百万円（同1.8%増）となりました。

トピックス タンクライナーの市場拡大

タンクライナーとは、貯水タンクの内側に貼るインナーシートです。オーストラリアやアメリカでは、雨水、農業用水、工業用水の貯水のため、干ばつ地帯を中心に大型のタンクを使用しております。このタンクが鉄製のため、長年使用すると錆が発生し劣化が進んでしまいます。そこで、このタンクライナーを鉄製タンクの内側にインナーとして貼ることで、タンク本体の劣化を防ぐことができ、タンクのメンテナンスの負担軽減にもなります。また当社のタンクライナーはポリオレフィン製のため、競合の塩化ビニール製のインナーよりも軽く強い特長があります。

今後は、引き続きオーストラリアの市場拡大に加え、塩化ビニール製のインナーが多い北米市場への展開を拡大させてまいります。



トピックス ラップフィルム用高速リワインダーを新開発

エンジニアリング事業では、国産品でのみ販売を続けているラップフィルムの市場に着目し、各種ラップフィルムを高速で小巻処理する機械を開発いたしました。従来の機械は構成する部品が多く、ユーザーにとって保守費用が大きな負担となっておりますが、各種設定に電子位置制御技術を多用することで大幅に消耗部品を低減し、保守費用を抑えることができました。社内常設の展示機による内見会では、環境対応として口取りテープの削減など当社の新しい提案が好評で、具体的な引き合いをいただいております。

今後もお客様の要望に応えるべく、新しい機械の開発に取り組んでまいります。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期 平成24年10月31日現在	当期 平成25年10月31日現在
資産の部		
Point 1 流動資産	11,209	13,756
Point 2 固定資産	8,308	8,803
有形固定資産	6,425	6,840
無形固定資産	166	153
投資その他の資産	1,716	1,809
資産合計	19,517	22,559

Point 1 流動資産

流動資産は、前期末に比べ現金及び預金等が増加したこと等により137億56百万円となりました。

Point 2 固定資産

固定資産は、生産設備の増設、更新及び合理化投資等により前期末に比べて増加し、88億3百万円となりました。

Point 3 流動負債、固定負債

流動負債は、支払手形及び買掛金が増加したこと等により前期末に比べて増加し、60億98百万円となりました。
固定負債は、長期借入金が増加したこと等により16億1百万円となりました。

	前期 平成24年10月31日現在	当期 平成25年10月31日現在
負債の部		
Point 3 流動負債	5,946	6,098
Point 3 固定負債	1,171	1,601
負債合計	7,118	7,699
純資産の部		
株主資本	12,720	14,761
資本金	1,274	1,778
資本剰余金	889	1,393
利益剰余金	10,558	11,592
自己株式	△ 2	△ 2
その他の包括利益累計額	△ 321	97
その他有価証券評価差額金	3	17
繰延ヘッジ損益	0	8
為替換算調整勘定	△ 325	70
少数株主持分	0	0
純資産合計	12,399	14,860
負債純資産合計	19,517	22,559

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前期 自平成23年11月1日 至平成24年10月31日	当期 自平成24年11月1日 至平成25年10月31日
売上高	20,805	21,688
売上原価	14,925	16,043
売上総利益	5,879	5,645
販売費及び一般管理費	3,672	3,588
Point 4 営業利益	2,207	2,056
営業外収益	164	185
営業外費用	104	116
Point 4 経常利益	2,267	2,126
特別損失	32	—
税金等調整前当期純利益	2,234	2,126
法人税、住民税及び事業税	975	791
法人税等調整額	△ 48	3
少数株主損益調整前当期純利益	1,308	1,331
少数株主利益	0	0
Point 4 当期純利益	1,308	1,331

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point 4 営業利益、経常利益、当期純利益

継続的な新製品の市場投入に加え、戦略製品への集中を展開した結果、営業利益20億56百万円、経常利益21億26百万円、当期純利益13億31百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前期 自平成23年11月1日 至平成24年10月31日	当期 自平成24年11月1日 至平成25年10月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	2,416	1,279
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,382	△ 1,045
Point 5 財務活動による キャッシュ・フロー	△ 474	757
現金及び現金同等物に係る 換算差額	3	38
現金及び現金同等物の 増減額（減少：△）	562	1,031
現金及び現金同等物の 期首残高	1,238	1,801
現金及び現金同等物の 期末残高	1,801	2,832

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point 5 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは公募及び第三者割当による増資等により7億57百万円となり、現金及び現金同等物の期末残高は28億32百万円となりました。

■株式に関する事項

(平成25年10月31日現在)

発行可能株式総数	18,000,000株
発行済株式総数	7,448,800株
単元株式数	100株
株主数	3,628名

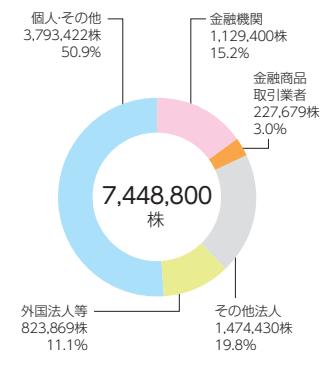
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
萩原株式会社	927	12.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	401	5.38
ゴールドマンサックスインターナショナル	320	4.30
萩原工業従業員持株会	319	4.29
日本ポリケム株式会社	305	4.09
萩原邦章	265	3.55
萩原賦一	197	2.64
野村信託銀行株式会社(投信口)	153	2.06
ドイツバンクアーク・ロンドンビー・ノットリティー・クワイアツ 613	112	1.51
株式会社広島銀行	100	1.34
株式会社三菱東京UFJ銀行	100	1.34

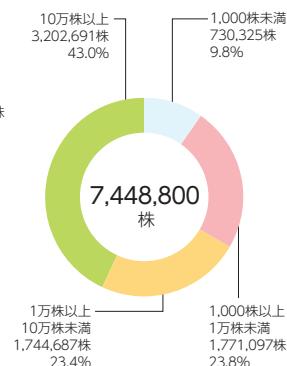
■株式分布状況

(平成25年10月31日現在)

所有者別株式分布状況



所有株数別株式分布状況



■会社概要

(平成25年10月31日現在)

商号	萩原工業株式会社
本社	〒712-8502 岡山県倉敷市水島中通一丁目4番地 TEL.086-440-0860 FAX.086-440-0869
設立	昭和37年(1962年)11月29日
資本金	17億78百万円
従業員数	418名
主な事業内容	ポリエチレン・ポリプロピレンを主原料とした合成樹脂繊維のフラットヤーンを用いた関連製品及びフラットヤーン技術を応用したスリッター等産業機械の製造・販売

■役員

(平成26年1月24日現在)

【取締役】				
代表取締役社長	社長執行役員	萩原	邦章	
代表取締役	専務執行役員	森岡	敏正	
取締役	常務執行役員	田中	稔一	
取締役	常務執行役員	道廣	和生	
取締役	常務執行役員	柳原	雅一	
取締役	執行役員	浅野	和志	

【監査役】

常勤監査役		吉川	龍男
監査役		中原	裕二
監査役		石井	辰彦

【執行役員】

執行役員	浅野	幾弘
執行役員	依田	伸二
執行役員	小合	秀明
執行役員	飯山	辰彦
執行役員	笹原	義博
執行役員	山本	実治

株主メモ

上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部
証券コード	7856
事業年度	11月1日から翌年10月31日まで
定時株主総会	1月
基準日	定時株主総会 10月31日 期末配当 10月31日 中間配当 4月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 当社ホームページアドレス http://www.hagihara.co.jp/ ※ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)

株式のお手続きについてのご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、ご不明な点は口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店におきましてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。